

きぎぎょう
通信

2016年7月(平成28年)

発行 桔梗が丘自治連合協議会
 連絡先 桔梗が丘市民センター内
 TEL 65-1206
 FAX 65-1206
 Eメール kikyou-ko@emachi-nabari.jp
 5,672世帯・13,837人
 (2016年6月1日現在)

桔梗丘高校舎ありきの

小中校統廃合・一貫教育計画

6月市議会答弁に進展なし

6月15日に開催された名張市議会第371回定例議会の一般質問で、3人の議員が注目されている小中校統廃合と一貫教育について、を取り上げた。議員らは住民の合意を得て

「桔梗が丘地域内の小中学校統廃合計画に関する地域集会」開催

7月23・24日3カ所

小中校の統廃合問題が浮上して以来、住民説明会での質問と提言書の両回答が市から示されていないのを明確にする目的で地域集会を開催します。

○平成28年7月23日(土)

14時30分～16時30分

○平成28年7月24日(日)

9時30分～11時30分

○平成28年7月24日(日)

14時～16時

今回は主催の桔梗が丘自治連合協議会が進行と質疑を担当し、市の関連部署が応答します。後半はご出席の皆さまからの質問・ご意見を受けま

桔梗が丘小学校体育館

追及したが、答弁は3月の住民説明会と変わりは無かった。3月の住民説明会の質問回答と、5月に桔梗が丘自治連合協議会が提出・配布した「提言書」の回答も示されていないこともあり、住民は今回の一般質問を大いに期待していただけに精彩を欠いた答弁に失望している。

早い段階で

提言書の回答を

桔梗が丘自治連合協議会が名張市長に提出し桔梗が丘全戸に配布した「名張市立小中学校の規模・配置適正化実施計画」の提言書について上島教育長は「細かく調査された資料で住民の想いが伝わってくる。早い段階で回答したい」と述べた。

提言書委員会から御礼

5月末に市の関係機関と桔梗が丘地域に提出・配布しました「名張市立小中学校の規模・配置適正化実施計画」の提言書について激励のお手紙を多数、頂戴しました。ありがとうございます。身が引き締まる思いでございます。今後ともご協力をよろしくお願い申し上げます。

統廃合と一貫教育シリーズ No.1

学校が28分遠くなる

名張市の教育委員会が示した小中校の統廃合一貫教育の案は(仮称)桔梗学園の校名で開校し校舎は、桔梗丘高校と桔梗が丘東小学校に設定しています。桔梗が丘小と同東小の距離は直線で980m。学校が遠くなったらどうなるか現在との比較をします。

子どもの歩測の定義は有りませんが高学年は3.0Km 低学年は2.5Km が一般に使われています。登下校の子どもは歩いていてもおしゃべり、振り向き、考え事など止まること多く計算通りではありません。また実際の道は、くねくね曲がり直線より長くなります。これらを見越して距離を直線に20%を加え低学年の歩測で試算すると(980m×1.2÷2500m×60分) 現在より28分多くなります。子どもの大切な時間を奪います。子どもが30分も早く家を早く出かける母親のウイークデイの朝は戦争だと思われま



ここは桔梗が丘駅交番前の交差点。
 今の子どもの登下校は荷物が重い。ランドセルが一昔に比べて大きい。水筒、水着、着替えなどを背負い・抱くと、まるでゲルマン人の移動に見える

高齢者のつどい

沖縄伝統芸能の太鼓で満喫

開催の継続に心配

年に一度の「高齢者のつどい」が5月29日に開催され、今回は桔梗が丘公民館から同市民センターに名称が変わり初

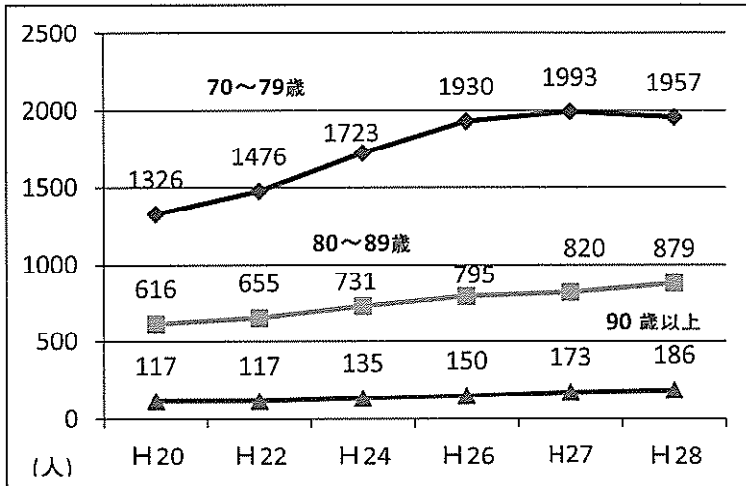


桔梗が丘市民センター講堂に出席した高齢者

めての第19回。主催は桔梗が丘地区民生・児童委員協議会と自治連合協議会。招かれた80歳以上の高齢者は「今年も元気で会えたね」と言葉を交わし足取りも軽く講堂に準備された自分の席に着いていく。

今年の演芸は伊賀地区を拠点に活動している沖縄伝統芸能「エイサ」から。伊賀流真太鼓のメンバーは外国でも演奏しているそうだ。お腹に響く太鼓の轟音(ごうおん)に高齢者の拍手が続く。午後からユーモア・トークショーや琴の伴奏で若い頃の唄で合唱を楽しんだ。

桔梗が丘全域の高齢者数の推移 資料:名張市H28.4.1現在

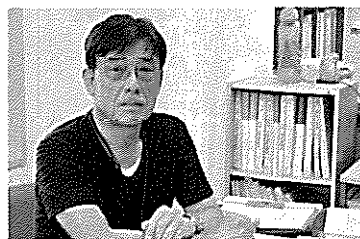


桔梗が丘地区別 70歳以上の高齢者数の推移(人)

	H20	H22	H24	H26	H27	H28
桔梗が丘地区 (1～8番町)	1,620	1,752	2,033	2,221	2,292	2,317
桔梗が丘南地区	201	228	272	319	343	348
桔梗が丘西地区	242	275	289	338	357	365
桔梗が丘全地区	2,063	2,255	2,594	2,878	2,992	3,030

主催者は、この会の継続に頭を痛めている。一つは開催の会場の広さ。今回は160

人の高齢者が出席し来賓やスタッフを合わせて多人数の宴会にふくらみ空間を確保するのに苦労したという。



桔梗が丘市民センター長
桔梗が丘南市民センター長
木村 好信

センター長に就いて

はや三ヶ月

明治の文豪、幸田露伴のある小説の冒頭に「身には疾あり、胸には愁いあり、悪因縁は遂ども去らず、未来に樂しき到着点の認めらるる無く、目前に痛き刺激物あり、欲あれども錢なく、望みあれども縁遠し、よし突貫してこの逆境を出でむと決したり」と記されている。

昨年六月に、大阪での会社勤めを終えた私の心境も此処に似たものでした。幸いにもこの四月に市民センターの役目を拝名

また運営の費用も消費税などの不安要素もありぎりぎりでのやりくりと心配している。

して、はや三ヶ月が経とうとしています。多忙の中にやりがいを感じながら、経験を重ねている今日この頃です。

桔梗が丘地域の「まちづくり事業」は活発で、その規模と質、量は名張市では断トツであります。街づくり活動を推進されて

いる自治連合やプロジェクトの方々には「滅私」の精神を垣間見ることが多くあり、感服している次第です。

市民センター(旧公民館)はこの桔梗が丘の「まちづくり」のベース基地、バックオフィス並びに地域の皆さまとのふれあいの場所であります。

市民センター長として、市民センターの働きの活性化に努め、微力ながらも、街づくりに貢献できるならと思っています。